

沖縄小児保健賞

沖縄小児保健賞を受賞して

北大東村立歯科診療所

歯科衛生士 池原 ひろみ

はじめに

沖縄小児保健賞という大変名誉ある賞を頂き心から感謝申し上げます。

これを新たな出発として、初心に戻り精進して参りたいと思います。

未就学児の歯磨き教室

未就学児を対象として平成11年から取り組んだ地域歯科保健活動の「歯磨き教室」開始前の乳幼児歯科健診において、大半がう蝕に罹患しており、治療を急務としている口腔状況でした。そこで平成11年から「歯磨き教室」を開始し、その中で染め出しをし、子ども達の口腔状態も記録し、歯の磨き方やデンタルフロスによる歯垢除去の方法を保護者に説明しました。さらに生活習慣の改善について甘味食品の摂取時間や摂り方、仕上げ磨きの方法やフッ化物応用も指導しました。

学校での取組

平成13・14年度に文部科学省、沖縄県教育委員会・北大東村教育委員会研究指定校として、小学校の

「歯・口の健康づくり推進校」の取り組みは、学年別に集団歯科保健指導を行い、校内で実施されているフッ化物洗口のやり方を説明したり、口腔衛生について啓発してきました。また、学校が発行する保健だよりでも口腔衛生について啓発を行い、学校定期歯科健診でC0・要観察歯のある子どもの保護者向けに、毎月行う授業参観で「親子歯磨き教室」を開き、う蝕予防について説明し、歯科受診を勧めてきました。

歯科診療所での取り組み

昭和63年以前は巡回診療のみであったため、住民は年齢に関係なく未処置が多い状態でした。村立歯科診療所開設以降の流れは、主にう蝕処置を行う疾病対応型の状況でした。

平成14年以降は、住民のう蝕予防の意識が高まる様に口腔衛生用品を揃え、歯磨き指導や予防処置(歯石除去、PMTC、フッ化物塗布、シーラント)を行い、来院者は定期的な歯科受診を継続するようになり、次第に歯科診療所の環境も健康管理型へと変化してきました。



学年別での集団歯科保健指導の様子

活動を継続して

未就学児の歯磨き教室開始に参加はするが歯磨きへの意識が低く、意識づけに苦労した子どもたちが、今は親となって歯磨き教室に参加しています。その親達が「仕上げ磨きを教えて欲しい」、「デンタルフロスの使い方も教えて欲しい」、とう蝕予防に対し関心を持つように変化してきました。

乳幼児歯科健診や学校歯科健診でう蝕罹患率が低下した要因として、飲食後や夜寝る前の歯磨き習慣が身についてきた子ども達が増えたこと、幼稚園・小中学校でのフッ化物洗口が実施されていること、歯の衛生月間に歯科保健指導や未就学児の歯磨き教室に参加する親がう蝕予防への意識が高くなってきたこと等が考えられます。北大東村における平成11年度の12歳児のDMFT指数（永久歯の一人平均う

歯等数）は7.69本と全国平均の2.65本を上回っていた状況でしたが、この問題点について各専門職と地域・家庭が連携して取り組んできたことにより、平成28年度のDMFT指数は0.16本に効果を上げることが出来ました。

最後に

この度は沖縄県小児保健協会の関係者の皆様をはじめ、地域での活動を理解しご支援頂いた各専門機関の皆様にご感謝申し上げますとともに、沖縄県南部保健所の歯科医師である比嘉千賀子先生には北大東村立歯科診療所まで足を運んで下さり活動へのご助言、ご協力をいただき感謝申し上げます。今回の表彰に劣らぬよう資質の向上を図り、今後も活動を継続していきたいと思っております。



未就学児の歯磨き教室の様子



フッ化物洗口事業説明会（学校への協力依頼）：学校会議室にて



学校歯科検診の様子（幼稚園児、小学生、中学生）